実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP①　論説文（自然・科学）

ヒントプリント　本体　P1～4

実施日　年　月　日

氏名

1

1～4

接続する語句には、次のような種類がある。

空欄の前後がどのような関係になっているか考えるとよい。

順接	前に述べた事柄が、あとに述べる事柄の原因や理由になっていることを表す。	（例）すると、そこで、だから、それで
逆接	前に述べた事柄と、あとに述べる事柄が逆になることを表す。	（例）しかし、だが、でも、ところが
並立・累加	前に述べた事柄に、あとに述べる事柄を並べたり、付け加えたりすることを表す。	（例）しかも、そして、それから、また
説明・補足	前に述べた事柄について、あとからまとめたり補ったりすることを表す。	（例）なぜなら、ただし、つまり
対比・選択	前に述べた事柄と、あとに述べる事柄を比べたり、比べて選んだりすることを表す。	（例）または、あるいは、それとも
転換	前に述べた事柄から話題を変えて、あとに続けることを表す。	（例）さて、ところで、では

5　「習慣を自分の物とすること」という意味の慣用句になる。

6　直前に「きらいなもので寄せつけない方法と逆に」とある。「きらいなもの」と逆の意味の言葉を探すとよい。

2

1　Aの前に「手入れはいつもどおりやっています」、後に「調子が悪くなってくる」とある。

2　植物が人の気持ちを感じて咲かなくなった様子は、二行目～八行目で述べられている。

3　「そういった意味」とは、「はじめに植物があって～動物が進化できた」という内容を指す。

4　植物と動物の関係や、植物と動物の比較については、十一行目～十六行目で述べられている。

1　空欄前に「モンシロチョウは江戸時代以前に外国から日本に渡ってきた」、空欄後に「中国などから、舟で運ばれた～飛んでくることもできた」とある。

2　「この」は指示語。
　指示語の内容は直前に書かれていることが多い。

3　まず――線部②の後に、「モンシロチョウは江戸時代以前に外国から日本に渡ってきた～つじつまが合うと結論した」と書かれている。
　これと、――線部②の中にある、「チョウの幼虫が、アブラナ科の栽培植物をたよりに生活していること」や「確実に日本の在来の種類といえるのは～ミギワガラシだけである」という内容を踏まえるとよい。

4　理由は「なぜなら」で始まる文や、「～からです」で終わる文で述べられていることが多い。

チャレンジ1　～国語の知識（語彙・文法・書写）～

1　目を引く＝注意を引き付ける。
　頭を絞る＝できる限り頭を働かせて考える。
　鼻に付く＝人の振る舞いなどがうっとうしく感じられる。
　耳に挟む＝ちらっと聞く。

2　a　「多く」を修飾している。
　b　言い切りの形（終止形）は「柔軟だ」である。

　形容詞＝自立語で活用があり、言い切りの形が「い」で終わる。
　形容動詞＝自立語で活用があり、言い切りの形が「だ・です」で終わる。
　接続詞＝活用がない自立語で、接続語（文と文をつなぐはたらきをする文節）になる。
　連体詞＝活用がない自立語で、体言（主に名詞）を修飾する。
　副詞＝活用がない自立語で、用言（動詞、形容詞、形容動詞）を修飾する。

3　主語が「気になっていることは」となっている。
　対応させるために述語にも「こと」を用いるとよい。

4　活用の種類＝「ない」をつけて未然形の形で判断する
　・五段活用……「ない」の直前はア段の音
　・上一段活用…「ない」の直前はイ段の音
　・下一段活用…「ない」の直前はエ段の音

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP②　論説文（言語・文化）

ヒントプリント　本体　P5～8

実施日　年　月　日

氏名

1

1　Ⅰの直前に「柄や色」とあるので、「柄や色」について述べられている八行目前後の内容に着目する。指定字数に気をつけながら、あてはまる言葉を探すとよい。

2　「おとなの悲劇」の内容は、十六行目～十八行目で述べられている。
空欄前後の「名まえを知りすぎてしまった」「よく見なくなってしまう」という言葉と対応する箇所を本文中で探すと、「名を知ってしまうと、もうその名に安心し、たよってしまって、よく見ることをしなくなります」とある。

3　最後の段落で、子どもの「コップ」のとらえ方について述べられている。

2

1　空欄の後に、善意が外国人に通じなかったときのエピソードについて詳しく述べられている。

2　日本人に対してすることを、外国人にもしてしまうということ。
日本人に対してすることを、――線部①の前の部分から探すとよい。

3　相手かまわず贈りものをやることは相手の何を「無視」している行為なのか、本来贈り物は相手の何を知ったうえでの行為なのかを考える。

4　鼻をあかす＝だしぬいたりして、優位に立っていた相手をびっくりさせること。
手のひらをかえす＝態度を急変させるさま。
顔をつぶす＝面目を失わせること。また、名誉を傷つけること。
腹を割る＝本心を打ち明けること。

3

1　「味音痴」とは、――線部①直前の「いくらおいしいものを～感動しない」ことである。
文章を読む場合、「おいしいもの」と「口に入れる」は、どの言葉に置き換えられるかを考える。

2　――線部②を含む段落で、「何回食べてみても味の変わらない」ものが名文とされている。
文章を読む場合、「食べてみても」と「味の変わらない」は、どの言葉に置き換えられるかを考える。

3　「天下の珍味～嫌いであるというようなことになったら」と、二文前の「ほかの人が～好きになれなければ」は似た意味の内容である。

4　空欄直後に「説明より実際に口に入れてみる」とある。
うそも方便＝嘘をつくことはいけないが、時と場合によっては嘘が必要なときもあるということ。
人のふり見てわがふり直せ＝他人の行動を見て、良いところは見習い、悪いところは改めよということ。
論より証拠＝あれこれ論じるよりも証拠を示すことで物事は明らかになるということ。
百聞は一見にしかず＝人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見るほうが確かだということ。

チャレンジ2　～課題作文～

「ギャグをまねること」や「言葉づかい」に関する自分の考えを書く。

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP③　論説文（社会・生活）

ヒントプリント　本体　P9～12

実施日　　年　　月　　日

氏名

1

1　「成熟社会」とは「一人一人がバラバラに動き始める社会」である。問題文中の「感覚がほしくなる」という言葉を手がかりにするとよい。

2　――線部②の内容を詳しく説明している箇所を探す。

3　「その」は指示語。指示語の内容は直前にあることが多い。

2

1　空欄前には「昔からの日本の家庭では～食事を大事にしてきた」、空欄後には「いま、日本人の食生活の見直しが多方面から叫ばれている」とある。

2　「個人主義」によって、子どもが「考えるようになった」こと、または「考えなくなった」ことを探す。

3　「心身両面の問題」とは、「精神的問題」と「身体的問題」の両方の問題のこと。――線部②の前に「このように」とある。「この」は指示語なので直前の内容に着目する。

4　「孤食が増えた原因」、「コンビニ弁当やファストフードを好んで食べるようになった理由」、「家族団欒の欠如」による影響、「『キレる』原因」がそれぞれどこに書かれているのかを探す。

チャレンジ3　～発表文～

1　「なぜこのような～」と、提案した理由を述べていることに着目する。

2　「反対意見への対応」「呼びかけ」「提案と理由」がどの段落で述べられているのかを考える。

3　由美さんが取り組みやすいと考える文集の内容は、発表原稿で「このクラスでの思い出や～自由な表現で書いてよい」と述べられている。

4　空欄直後に「提案が受け入れられた」とある。由美さんの提案が、みんなを納得させられるものだったことから考える。

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP ④　小説文（友情）

ヒントプリント　本体　P13～16

実施日　　年　　月　　日

氏名

1

1　――線部①の後に「見せてあげる」とあることから、「いいもの」とは、エミ子がチヅルに見せたものである。

3　――線部②とは、エミ子が「いなくなっていた」ことである。このことにチヅルが気づいていなかった理由に着目するとよい。

4　前後の「顔を真っ赤にして」「肩で息をして」の部分から、エミ子の様子を想像する。

2

1　「あたし」が「酸素たりない」と感じる時の様子や、「酸素たりない」と感じる理由がどこに書かれているのかを探す。

2　インチョウは「席がえしてください」と言ったが、ドキリンコ（先生）は席がえをしなかったのである。インチョウが席がえをしてほしかった理由と、ドキリンコが席がえをしなかった理由にも着目する。

3　ドキリンコ（先生）の発言で、班での活動について話している箇所に着目する。

3

1　「無造作」とは、「技巧をこらさないこと。念入りでないこと。」である。

2　「私」は、リエたちがさりげなく「すいちゃん」をいじめているのを注意できないでいる。その理由に着目する。

3　「私」は、――線部③の直前で「すいちゃん、私の大盛りにして」と言ったときの自分のことを誇りに思っているので、そのときの「私」の様子に着目する。

チャレンジ4　～国語の知識（語彙・書写・文法）～

3　「言った」のは「校長先生」である。

5　活用形は、あとに続く語が何かで判断できる。

	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
あとに続く言葉	ナイ・ヌ レル・ラレル ウ・ヨウ	マス・タ タイ・テ	――。	トキ コト モノ ノデ	バ	○

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP⑤　小説文（家族）

ヒントプリント　本体　P17～20

実施日　年　月　日

氏名

1

2 「ふと」は副詞。副詞は用言を修飾する。
「ふと」どうするかを考えればよい。

3 「むくれる」とは、怒ってむっとするという意味。
「家の壁やフェンスをがりがりひっかく」のは、「すねている時のミキの癖」である。

4 ミキの「すねている時」の気持ちが具体的に書かれている文を探す。

2

1 「その」は指示語。指示語は直前の内容を指すことが多い。

2 ピアノがきらいな「私」にとって、ピアノを習わされることは苦痛なことである。
母は「私」にピアノを習わせる一方、「男の子はピアノを習わないものなの」と言っている。
このことをふまえて、弟の進の「幸運」の内容について考える。

3 「私」のバースデー・プレゼントはピアノで、それは欲しかった物ではない。
一方、弟の進は、一番欲しがっていた新品の自転車を買ってもらったのである。
これを「不公平だ」と感じた私の様子に着目する。

3

1 指示語の内容は、直前にあることが多い。
「そのせい」と考えているのは父なので、――線部直前にある父の考えに着目するとよい。

2 Ⅰ Ⅱ　父は、持病があるわけでもないのに身体が弱い私を、毎年海水浴に連れていっている。そのときの様子に着目するとよい。
Ⅲ Ⅳ　母は、海からあがったときにバスタオルを準備して笑顔で待ってくれており、そのバスタオルからは「秩序と安心の匂い」がすると描かれている。

チャレンジ5　～条件作文～

グラフ（資料）の読み取りは、大きな変化や差に注目する。
また、「グラフ（資料）から」で始まるときは、文末は「ことがわかる」と書くとよい。

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP⑥　小説文（悩み・葛藤）

ヒントプリント　本体　P21～24

実施日　年　月　日

氏名

1

1　「ハラへった！」と言うケンに、昭平が「ほんとうに日本語うまいなぁ」と驚いていることに着目する。

2　外国人の血を引くケンのことを、「ほんとうに日本語うまいなぁ」「やっぱガイジンは野蛮だよなっ！」と皆が言っている点に着目する。

3　「昭平は正直に感じたことを言っただけなのだ」とあるので、昭平の言った内容を探せばよい。

2

1　――線部①のあとに「ダッシュ、ダッシュと緒方先生の声が背中をおす」とある。これと同じように緒方先生の会話の中で、練習にはげむように「背中をおす」言葉をさがす。

2　――線部②の次の二つの段落「しょうがない～口の中に血のにおいが広がった。」に遠子の気持ちが表れている。

3　「とあきらめてしまえる」が続くので、あきらめるときに言うのにふさわしい表現を、十二字という字数をヒントに探す。

4　「大会が終われば、すぐにハードルをやめるつもりだった」とあるように、遠子はハードル自体を好きになったわけではない。「けりをつける」とは、決着をつけることである。

5　Ⅰ　直後に「言いたいのに言えなかった」とあるので、遠子が何を言おうとしていたのかを探す。

Ⅱ　爪のあとが残っていたわけだから相当強くこぶしをにぎっていたことがわかる。――線部④の前の部分で、遠子は自分の気持ちを言う前に、「この話はここまでにしよう」と先生に言われている。

チャレンジ6　～話し合い～

1　「昔から伝わるもの」と似た表現を、〈話し合いの様子〉から探す。

2　B の山口君の発言の後、日向焼の花びんを割った話に話題がそれそうになったことに着目する。また、他の三点の工夫は、〈話し合いの様子〉のどこに該当するのか考えるとよい。

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP⑦　古文

ヒントプリント　本体　P25～28

実施日　年　月　日

氏名

1

〈会話文の見つけ方〉

①会話に入る直前の言い方を探す。

（例）「○○（が）言ふやう」

「○○（が）申すやう」

「○○いはく」

②会話の終わりを示す言い方を探す。

（例）「～と（言ふ・答ふ・問ふ・尋ぬ・申す）」

「～とて」

2

1　会話の終わりを示す言い方の「～と」に着目する。

2　「ある翁」の答えは「人をみるには～あしきと心得たまへ」である。この内容をもとに考える。

3

3　主語なので、「何があるのか」「だれが見たのか」「だれが座っていたのか」ということを考えればよい。

4

2　古文では、動詞を二つ重ねるのは、それに熱中する様子を表すときに使う。

3　「映る」とは、水面や鏡などを明るく照らすこと。

4　「さやうなるをり」は、「そのようなとき」という意味。指示語の内容は直前にあることが多い。

実戦力UPトレーニング　3年　国語

ウォーミングUP⑧　古文・漢文

ヒントプリント　本体　P29～32

実施日　年　月　日

氏名

1

2　会話の終わりを示す言い方に着目する。

3 (1)　Aは本来降ってくるはずのもの。Bは車にまつわる部品の中で、時雨から連想されるもの。

(2)　顕雅が「時雨」と「車」を入れ替えて言ってしまったということから探す。

2

2　レ点……一字だけ上の字に返る。
一、二点…二字以上離れた上の字に返る。

3　指示語の内容は、直前にあることが多い。
「これが足」の「が」は主語を示すのではなく、「これの足」という意味。

4　「（蛇の足が）いまだ」に続く言葉である。「ざる」は打ち消しの助動詞「ず」の連体形。

5　会話に入る直前の言い方と、会話の終わりを示す言い方「と」に着目する。

3

1　前半の第一句、第二句では蝶のことを、後半の第三句、第四句では燕のことを対比的に書いている。

2　「有旧巣燕」を「④①②③」の順で読む。
「燕」から「有」へ二文字以上返る。

3　「花が開く」は、漢詩Aの「花開（花開けば）」に対応する。
直後に「蝶満枝（蝶枝に満ち）」とあることに着目する。

5　空欄の直前に「燕のように」とあるので、燕のことを書いた第三句、第四句に着目する。
第三句、第四句の意味は、解説文Bの二、三行目に「ただ燕は今年も同じ巣に帰ってくる」とある。
これを、人に例えるとどのような意味になるかを考える。